



4月25日(木) ふおれすと鉱山がオープン!

鉱山地区は、
水と緑が織りなす
自然の宝庫。そして、
子どもの環境教育に最適の場。

4月25日(木)、この地に
『人と自然のふれあい拠点』の
中核的な施設としてオープンする
『ふおれすと鉱山』を紹介します。

ふるさととの豊かな自然を 子どもたちの手へ

ふるさととの自然を愛する 市民の思いが、結実!

『ふおれすと鉱山』建設までの経過
をさかのぼると、平成元年、国の『ふ
るさと創生事業』を契機に誕生した市
民組織『いきいき人とまち推進会議』
の『こんなまちにしたい提言書』（平
成6年3月刊行）に至ります。

同会議は、この提言書のなかで、5
年間にわたる自然をテーマとしたまち
づくりの議論や自然の調査結果を取り
まとめ、鉱山地区を「水と緑が織りな
す見事な自然の宝庫」「子どもの環境
教育に最適の場」と位置付けました。

そして、鉱山地区の適正な自然の利
用や保全、創造を考え、環境教育を進
めるための人材育成・ネットワークづ
くりや環境に配慮した整備のあり方な
どをまとめた『鉱山の自然の村づくり
構想』を描き、登別の自然・環境の情
報の発信源としての中心的な役割をも
つ施設として『ネイチャーセンター』
の必要性を説いています。

この提言は、平成8年に策定した

『登別市総合計画』に生かされます。
市は、鉱山地区を「人と自然のふれ
あい拠点」と位置付け、その中核的な
役割を担う施設・ネイチャーセンター
の建設を主要な施策の一つとしました。

平成9年からは、この施策に基づき、
市は「鉱山地区整備調査」を実施する
とともに、鉱山地区の整備のあり方や
ネイチャーセンターの基本プランを検
討する『市民懇話会』を設置。平成11
年6月には同懇話会から、提言書が提
出され、この中で鉱山地区を、自然環
境の尊さ、大切さを学び、次代に継承
する意識をはぐくむためのセンターと
位置付け、ネイチャーセンターの担う
べき役割・機能や運営の方向性が示さ
れました。

4月25日にオープンするふおれすと
鉱山は、いわばふるさととの豊かな自然
を愛し、かけがえのない財産とし、未
来に生きる子どもたちに手渡したいと
願う市民の熱い思いをもとに誕生した
施設です。

自然環境学習の場として、また、市
民のみなさんが自然と親しめる場とし
て、ふおれすと鉱山をぜひご利用くだ
さい。

『ふおれすと鉱山』は、登別市
ネイチャーセンターの愛称です。

